

事例3 第5学年 内容項目：B 友情、信頼

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ・問題意識を高める導入 | ・教材の中にある道徳的な問題への気付き |
| ・話し合いを深める問い返し | ・考える視点を分けた話し合い |
| ・考えを広げ、深める役割演技 | ・多様な視点から捉えさせる問い返し |
| ・思いや考えを整理する書く活動 | ・自己の成長を実感する振り返り |

1 主題名 たがいに信頼し、学び合って

2 ねらい よりよい友達関係を築くために大切にしなければならないことについて話し合い、考えを深めることを通して、相手の気持ちや立場を考えながら、互いに信頼し合い、友情を深めようとする態度を育てる。

教材名 「知らない間の出来事」(出典：「私たちの道徳 小学校5・6年」文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」に関するものである。この内容は、低学年の内容項目「友達と仲よくし、助け合うこと。」や中学年の内容項目「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」を通じて育まれ、中学校の内容項目「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」に発展していく。

この段階においては、これまで以上に友達を意識し、流行にも敏感になり、仲のよい友達との絆を深め、閉鎖的な仲間集団を作る傾向が見られてくる。そのために、友達関係での悩みをもつことが多くなるため、健全な友達関係を育てていくことが重要になる。

指導に当たっては、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てていくことが大切である。また、携帯電話等のメールによる事件が連日のように報道されている今日、情報を一面だけで受けとめ、判断するのではなく、多面的に考えて判断する力や、相手の思いを理解しようとする力がより一層求められている。情報ツールを正しく活用し、よりよい人間関係を築いていけるようにすることが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、1学期に道徳科で教材「言葉のおくりもの」を活用し、異性を理解しながら、共に友情を深め、人間関係を築いていくことについて学習を行った。異性に対する関心が強まり、これまでとは違う感情を抱くようになる発達の段階において、互いの人格を尊重し、よい関係を築こうとする生き方について話し合った。

また、多くの児童は、1学期に行われた運動会や宿泊体験学習を通して、友達と協力して活動する楽しさや互いに助け合い高め合うことのよさを感じている。現在も、2学期の校内音楽会に向けて、協力して練習に励む姿が見られる。全員が学級の中に仲のよい友達がいれば、学級の中の関係性もよい。友達がいてよかったことも感じており、その理由も把握している。友達との関係の中で、困っていることの一番の原因はけんかをしてしまうことである。その理由は、意見が違ったりすれ違ったりすることである。また、よい友達との関係についても、対等であり、互いにプラスになる関係をよい関係と捉えている児童がいる一方で、よりよい友達との関係が分からない児童もいる。本授業を通して、健全なよりよい友人関係について理解し、友情を深められる児童を育てていきたい。

携帯電話については、クラスの65%が自分の携帯電話を所持している。自分の携帯電話を所持していなくても、携帯電話で色々な機能を使用したことがあり、携帯電話は身近なものとなっている。

携帯電話を小学生が持つことについては、意見が分かれた。賛成意見の理由から、連絡をとることができたり、居場所を知らせたりすることができる等、携帯電話のよさを認識していることがわかる。一方、反対意見の理由からは、事件に巻き込まれる等、携帯電話の危険性を認識していることがわかる。本教材を通して、携帯電話のもつ危険性に気付かせるとともに、コミュニケーションをとる手段は携帯電話だけではないことについても気付かせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、転入してきた「あゆみ」、そのあゆみと仲よくなろうとした「みか」、それぞれの回想が書かれている。みかが送った軽率なメールをきっかけとして、あゆみを傷付けてしまうという人間関係のトラブルを題材としている。

本学級の児童の実態を受け、主に次のことを話し合わせる。

①教材に描かれた問題とその原因。

あゆみが携帯電話を持っていないことについて、みかが自分の推測も加えて友達にメールを送ったことが、どうしてトラブルへとつながったのかを考えさせる。

②転校してきたあゆみの思い。


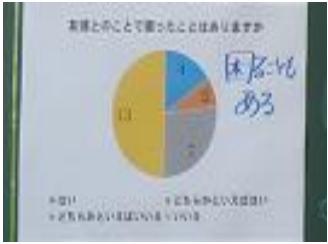
あゆみの思いについて想像したり共感したりすることを通して、相手の気持ちを考えることの大切さに気付かせる。

③あゆみに電話しようとしているときのみかの思い。

誤解を招いてしまったことへの反省の気持ちや、これから仲よくしていきたいという気持ちを捉え、信頼し合うためには、互いに理解し合うことが大切であることを考えられるようにする。思い込みが間違った情報を生み、それが友達関係を壊すことにつながりかねないことをしっかり押さえたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 「友達関係」に関するアンケート結果を見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">問題意識を高める導入</p> <p style="text-align: right;">アンケート結果から自分たちで課題を見つけさせ、問題意識を高めた。</p> <p>T：グラフを見て何か気が付くことはありますか。 C：友達がいってよかったと言っている人が多い。でも友達がいって困っている人もいる。 T：友達がいるのはよいことなのに、どうして困ってしまうのだろう。 C：意見が違った時。ケンカになってしまう。 C：わかってくれない時。気持ちが伝わらない。 T：そんな時、どうしたら友達と仲よくできるのでしょうか。 友達とよりよい関係を築くために大切なことは何か、この教材で考えていきましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><よい友達との関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・けんかしてもすぐ仲直り ・助け合う ・なんでも相談できる ・助け合う・励まし合う・支え合う ・一緒に遊べる ・気が合う ・体も心も傷つけない </div> </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">よりよい友達関係を築くためには、どんなことが大切なのだろう。</p>	<p>・友達がいってよいこともあるけれど、困ったこともあるんだな。</p>	<p>・アンケート結果を示し、児童がねらいとする道徳的価値について問題意識がもてるようにする。</p>
展開	<p>2 教材「知らない間の出来事」を読み、話し合う。</p>		<p>・はじめに、みかの思いに共感し、問題意識を高めるため、みかの回想のみを読み聞かせる。</p>

(1)この話では、何が問題なの
でしょうか。

・あゆみが携帯電話を持っ
ていないことを、みかが
自分の推測も加えて友達
にメールしたこと。

・思い込みや気持ちの苛立ちから
よく考えずにメールを送ってし
まったことに気付かせる。

教材の中にある道徳的な問題への気づき

T : この話の問題点は何ですか。

C : みかさんは、あゆみさんと趣味が一緒だから、仲よくなろうと思って携帯電話の
番号を聞こうとした。でも、携帯電話がないことを知った。携帯電話がないのは、
友達がいらないと思い込んで、メールを流してしまったこと。

T : 勝手に思い込んでしまったこと、そして、携帯電話でメールを流してしまったこ
とが問題点なのですね。

(2)みかはどのような思いで
メールを送ったのでしょ
うか。

・せっかく携帯電話で話そ
うと思ったのに、話せないのが嫌だった。(苛立
ち)
・携帯電話で話せないなら
仲よくなれない。(間違
った友情観)
・携帯電話を持っていない
なら友達も少ないので
はないか。(思い込み)
・よく考えずにメールを送
ってしまった。(情報モ
ラルの欠如)

・あゆみが携帯電話を持っていな
いことで、困ったり苛立ったり
する人間的な弱さをもつみかに
共感させながら、トラブルにつ
ながってしまった原因について
考えさせる。
・情報モラルの観点から、誤った
判断がトラブルにつながるこ
とも押さえる。

話し合いを深める問い返し

T : みかは、どうして問題になってしまうメールを送ったの。

C : 携帯を持っていないから、前の学校で仲間外れになっていたのかなと思って。

T : **なんで仲間外れにされていたと思ったの。**

C : みんな携帯を持っているのに、一人持っていなかったら仲間に入れられないから。

C : でも、本当は、仲間外れと思っていたのではなくて、携帯で話せないからむしゃく
しゃしちゃって。

T : **えっ、むしゃくしゃした気持ちがあったってこと？ どうして？**

C : あゆみさんと仲よくなりたかったのに、なれなくて悩んでたから。

C : みかにとって自分と同じじゃないのは友達じゃないと思ったのかも。

C : 思い込んでしまったんだと思う。

T : みかが送ったメールはどうなったの。

C : メールの内容が変わっちゃった。

T : **みかは、こんな内容を送りたかったの？**

C : ううん。違う。

T : このメールを知ってみかはどう思っていたかな。

C : どうしょう、自分のせいだ、困ったな。謝らなくちゃ。

みかの心の内に共感させるた
め、児童の発言から、気持ち
の背景にある思いを語れるよ
う、問い返した。

(3)あゆみは、転校してきてから、どんな思いをしていたのか考えましょう。
(中心発問)

<みかに対して>

- ・仲よくなりたい。
- ・優しくしてくれて嬉しい。
- ・携帯電話がなくても仲よくなれる。

<メールが流れたことに対して>

- ・どうしてこんなことになるの。
- ・ひどい。
- ・そんなこと根も葉もない嘘。

<思いを伝えることに対して>

- ・メールではなく直接伝えないと気持ちは伝わらない。
- ・勇気を出して言わないと本当のことが伝わらない。

・ここで、あゆみの回想を読み聞かせる。その際、考える視点を示し、その視点で聞くよう指示する。

・指定したテーマについて、個人の考えを付箋に書かせた後、付箋を基に小グループや全体で話し合い、考えを深めさせる。

・付箋は、考え1つにつき1枚を使わせる。付箋には名前を書かせ、誰の考えかが分かるようにさせる。

☆みかに対してや、メールが流れたことに対して等、あゆみが抱く思いを多面的に考えている。
(付箋、発言)

考える視点を分けた話し合い

T：問題になってしまったあゆみさんは、転入してきてからどんな思いでいたのでしょうか。それぞれ3つのテーマに関して、付箋に自分の考えを書きましょう。

C：(自分の付箋に考えを記入する。)

T：グループで自分の考えを発表しながら、同じ考えごとに分類して貼りましょう。分類したものには、それぞれ見出し(キーワード)を書いてください。



A

<みかに対して>

- C：同じ趣味だし友達になりたいな。
- C：でも、携帯電話を持っていないと友達になってくれないのがっかりだな。
- C：もしかしたらみかがメールを流したのかもしれない。
- C：仲よくなりたいのに。

B

<メールが流れたことに対して>

- C：なんでこんなことになるの。そんなこと根も葉もないうそなのに。
- C：この学校では仲間に入れないのかな。ひとりぼっちだ。
- C：仲よくなりたいのに。
- C：みんなわかってくれない。

C

<思いを伝えることに対して>

- C：このままじゃいけない。自分の考えを勇気を出して伝えないと。
- C：でも言ったらまた言われちゃうかな。
- C：仲間外れにされたままはいや。
- C：正しいことを伝えよう。



自分の考えを書いた付箋を貼りながら、自分の考えを伝えた後、同じ考えを分類し、見出しを付けることで、みんなの考えを生かす話し合いにした。

T : それぞれのグループの話を共有しましょう。
 始めに、みかさんに対してはどう思っていたでしょう。
 C : みかさんに対しては、嬉しかったと思う。
 T : なぜそう思いましたか。
 C : 転入してきて不安だったところ話しかけてくれたから。
 C : でもがっかりさせてしまったという思いもあります。
 T : どういうことですか？
 C : 携帯電話がなくて、みかさんがしょんぼりしていたから。
 T : メールが流れたことに対してはどう思っていますか。
 C : メールが流れてしまったことで、みんなが間違っただけを正しいと思いこんでしまっていると思う。
 C : 前の学校では、あゆみさんはみんなと仲よしだったのに、この学校では友達になれないと思っています。
 T : どんな思いがあゆみに帰りの会で思いを伝えようとさせたのでしょうか。
 C : 自分の考えを直接伝えたいという思い。このままだとひとりぼっちになってしまうから。
 T : どうしてメールではなくて、自分の口でみんなに伝えたのでしょうか。
 C : 勇気があるけれど、メールでは内容が変わっちゃうかもしれないから。
 C : みんなの前で自分の思いを伝えた方がちゃんと伝わるから。
 C : 自分の言葉で正しく伝えなかったから。

(4) みかはあゆみに、どんな思いで電話をしたのでしょうか。

- ・あゆみさんを傷付けてしまいごめんなさい。
- ・あゆみさんの気持ちを考えずに行動してしまっただけで反省しています。

- ・これまでの話合いを踏まえて、みかとあゆみ、それぞれの思いを役割演技を通して表現させる。その中で、信頼し合うためには、相手の気持ちや立場を考え、自分の言動を判断することの大切さを捉えさせる。

考えを広げ、深める役割演技

T : あゆみの行動から、みかが気が付いたことを電話でお話ししよう。
 (C 1 : みか C 2 : あゆみ)
 C 1 : もしもし、あゆみさん。
 この間メールを送ってしまったのは、私です。噂を広めようとして送ったのではなく、ただ携帯電話を持っていないことを知らせようと思っただけなのに、こんなことになってしまっただけでごめんなさい。
 C 2 : どうしてそんなことしたの。
 C 1 : 携帯を持っていなかったからメールができなくてむしゃくしゃして…ごめんね。理由も聞かずにメールしてしまっただけで本当に反省しています。
 C 2 : 携帯を持っていないだけで決めつけるのはよくないよ。これからは、考えてからメールを送ってね。

道徳的行為を支える原動力について語る発問

T : どんな思いが、みかに電話をさせたのでしょうか。
 C : あゆみは自分の思いを伝えてくれたから、自分も正しく伝えないといけないという思い。



全体での交流では、役割演技でのセリフを基に、そのセリフに隠された思いに触れられるよう問い返しをしていった。



みかは白帽子、あゆみは赤帽子を被り、電話をしたときの会話を演技した。演技中、全体で取り上げるグループを確認しておき、その後、全体の前で再現させ、そのときの思いを共有した。

3 学習課題について、考えをもつ。

- みかさんに足りなかったのは、どのようなところだろう。

- 携帯を持っていないことについてきちんと聞かなかったところ。
- 携帯を持っていないと遊べないと決めつけてしまったところ。

多様な視点から捉えさせる問い返し

T：友達と関わる上でみかさんに足りなかったのは、どんなところですか。

C：相手を正しく知ろうとしなかったところ。

C：携帯を持っていないから、友達にはなれないと思い込んでしまったところ。

C：よく考えないで、クラスみんなにメールを送ってしまったところ。

T：でもみかさんも素敵だと言ってくれたね。どこが素敵なところですか。

C：きちんと謝れたところ。

C：すぐに自分を振り返るところ。

C：自分を改めるところ。

みかの課題面だけでなく、みかのよいところにも目を向け、みかのよさも共有した。その上で、至らなかった部分をみんなで学べるように確認した。

- よりよい友達関係を築くためにはどんなことが大切なのだろう。

- 携帯電話がなくても仲よくなれることを知ること。
- 相手のことをよく知らない人に、自分の思ったことを軽々しく言わないこと。
- 相手の気持ちを考えて発言すること。
- 相手を知ること。
- 相手が自分と違って相手も認めること。
- 自分の思いも伝えること。

- 書く活動を取り入れ、道徳ノートに自分の考えを整理した後、全体で交流する。

思いや考えを整理する書く活動

T：よりよい友達関係を築くために大切なことは何でしょう。今日の授業で見つけたことを、ノートに書きましょう。

C：相手のことをもっと知って、自分と違って、相手を認めること。

C：それが正しいことか確認して、一度自分で考えて納得してから、相手に話すこと。

C：相手の気持ちを考えること。

C：相手のことを考えながら、自分のことも伝えること。



授業での話し合いを通して見つけた自分なりの「納得解」を整理した。そして、全体で共有することにより、更に学びを深めた。

4 今までの自分を振り返り、これからの生き方について考える。

・これまでは、相手を正しく理解しようとしなくて、自分勝手に決めつけてしまうことがあった。これからは、相手の気持ちや立場を考えて、自分の考えを伝えられるようにしたい。

・道徳ノートに今日の授業を振り返りながら記入させる。
・書く時間を十分確保する。
・書くことによって、ねらいに関わるこれまでの自己の生き方を深く見つめ、また、今後の自分について考えさせることにより、ねらいとする価値に対する意識を高める。

☆自分との関わりで捉えたよりよい友達関係について具体的に記述している。(道徳ノート)

自己の成長を実感する振り返り

T：今日の授業を振り返り、3つの視点でノートに整理しましょう。

(3つの視点を確認する)

C：今までの自分は助け合ったり励まし合えたりすることがよりよい友達関係だと思っていました。今日の学習で、自分と違って相手を認めることの大切さに気が付きました。これから学んだことを生かして友達と接していきたいです。

C：今までの自分は何でもすぐ他の人に話してしまっていました。今日の授業で、思い込みは大きくなりその人を傷つけることにつながると学びました。これからは、考えて伝えたいです。

3つの視点

①これまでの自分

②今日の授業で学んだこと

③これからの自分

の順で道徳ノートに記述した。



自己の成長を確認できる記録として、評価にも活用できた。

くふり返り）
 ①今までは、何回いやなと思う言葉
 を言われたかでその人と決
 っけていました。
 ②今日の授業で、相手の気持ちと
 深く考え、相手はという気持
 ちで言っているのか、伝えてい
 るのかというものの大切さが分
 かりました。
 ③これからは、その時に思った事
 を話すのでは無く、深く考え
 から落ち着いて、相手の事を考
 えて話したいです。

今までの自分、人のこと
 をよく知らず、情報も流し
 ていたが、これからは、
 より友達関
 係を築くために、相手のこと
 をよく知り、自分の思いを伝
 えることが大切だと学びまし
 た。
 なので、もう、二度と相手
 を知らずに情報を流すこと
 せず、相手をよく知り、また
 自分の思いを伝えられるよう
 にしたいです。


①今までの自分②授業で学んだこと③これからの自分の視点で道徳ノートに整理
 させることで、授業前と授業後の変化を見取った。

<p>終末</p>	<p>5 教師の話聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> • 思いを伝える素敵な手紙を紹介し、相手の気持ちを考え、手段を活用したときには、友達関係をより深めていくことにつながることを感じさせ、相手を正しく理解し、信頼し合える友達関係を築こうとする意欲を高める。
-----------	------------------	--	---

本時の板書

直接板書する課題

全体での話し合いを整理・共有



文字で伝わるメールを実感できるように実際の形で表示した。

付箋を活用したそれぞれの班のまとめを掲示し、全員の考えを授業に生かした。(意図的指名にも活用した。)

- 5 他の教育活動との関連**
- 校内音楽会での「群読」「合奏」への取組を通して、友達のよさや違いを認め、互いに磨き合い高め合える友情を育む。
 - 日常生活では、相手の気持ちや立場を考えて行動したり、自分の思いを伝えたりできるようにすることで、相手を正しく理解し、信頼し合える友達関係を築けるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・友達が多様な考えを認め合いながら、自分の考えを伝え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・よりよい友達関係を築くために大切なことについて、自分との関わりで考えている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習について

視点を分けて話し合った小グループでの話し合いは、それぞれの視点に絞った話し合いとなったため、何を考えればよいのか明確になり、話し合いが活発に進んだ。そのため、その後の全体での話し合いでは、あゆみの多様な心の内が理解でき、多面的に考えることにつながった。

電話をかける役割演技では、今までの話し合いを基に、自分の思いを伝える姿が見られた。それぞれの役割を赤白帽子で明確にしたことで、自分の役割を自覚し、演技を行いやすくなった。時間配分により両方の立場を体験することができなくなったが、可能であれば、どちらの立場でも体験してみると、多角的な心情理解につながると考える。しかし、役割演技を再現し、全体で見合うことは自分の考えを広げることにつながった。

②自分と関わりで考える学習について

自分を振り返る活動では、これまで自分が捉えてきた友達関係に、例えば、「相手の気持ちを深く考え、自分の行動で相手がどう思うか考えて接する。」や「すぐに言葉を伝えずに、一度どう思うか立ち止まって考えてから話す。」など、教材の特質を生かしたよりよい友達関係づくりの観点が加わった記述が見られた。特に、情報モラルの観点から大切にしていたかった、情報を扱う際の正しい判断や、他者との違いを認めるという記述も全体で取り上げ、共有することができた。「今までの自分」に関する記述から始めることで、自分との関わりで、本時の授業を捉えることができた。

(2) 視点☆に基づく本時の評価

【物事を多面的・多角的に考える様子】

☆みかに対してや、メールが流れたことに対して等、あゆみが抱く思いを多面的に考えている。

小グループで付箋を書く場面において、自分の考えを進んで記述している学習活動について評価を行った。付箋には、1つの内容のみ書くように示したが、何枚も考えを記述しようとする積極的な姿勢が見られた。また、その後のグループでの話し合いでも、友達の考えを聞きながら、自分の考えが誰と同じなのか考え、グループの用紙に整理する姿が見られた。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

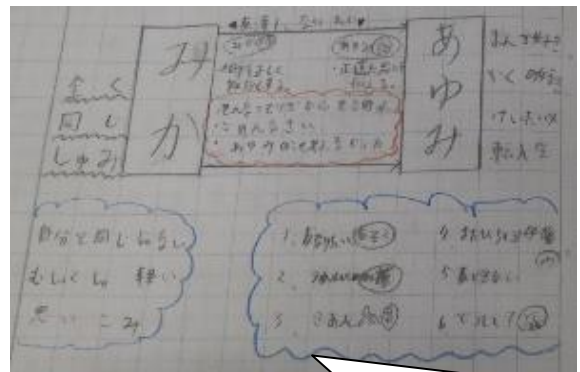
☆自分との関わりで捉えたよりよい友達関係について具体的に記述している。

自己を見つめ、振り返る場面で道徳ノートの記述から評価を行った。今まで捉えていた友情観に加え、授業を通して新たな気づきが得られたようであった。授業前の自分と授業後の自分の成長の様子を児童自身の記録として残すことができた。

(3) その他

学習課題について考えをもつ場面では、整理してきた道徳ノートを活用し、話し合う姿が見られた。道徳ノートで考えを整理することは、話し合いの活発化につながると考える。

板書は、全ての考えを羅列するのではなく、児童の考えを整理して板書した。思考を支えるキーワードや場面絵、登場人物の絵等のみ準備し、話し合う課題や内容については、直接板書するようにし、主体的な学びの支えとした。また、付箋を使った話し合いなど、児童の活動を板書に示すことで、全員で授業を創っていく実感が得られるようにした。



道徳ノートを活用し、友達の考えをメモしながら、友達の考えを理解し、自分の考えを伝えている。